

特定非営利活動法人  
フードバンクしまねあったか元気便  
25年度事業報告



(はじめに)

お米の「品薄」と高騰、相次ぐ食品値上がりのなかでも、のべ利用世帯数、提供食品数量、寄付金など24年度実績を大きく上回る取り組みとなりました。

1:物価高騰のなか、年5回、のべ2,864世帯に32.8トンを届けました。

- ①: お米の「品薄」や高騰、食品の相次ぐ値上げの続くなか、松江市内の小・中学校29校、のべ2,864世帯、のべ10,666人の家族に約32,8トンの食品やお米などを届けることができました。しかしながら、冬休み便以降はお米提供数量を2割減らさざるを得なくなりました。
- ②: フードドライブには、96の団体・企業からの協力がありました。パッキングをはじめフードバンクしまねの取り組みに、のべ1,825人のボランティアが応援参加しました。
- ③: ニッシンググルメビーフと生協しまねの協力で「物価高をやっつけろ!! 緊急食卓応援」(牛肉600kg)に取り組みました。

2:「協働」した場づくりで、家族や子どもたち、のべ400人以上が参加

- ①: 「おやこ de 思い出づくり」では、「おかあさんの似顔絵パンづくり」(上口福祉会)、「ぐるっと松江堀川めぐり」(松江観光振興公社)、「プログラミング体験教室」(リコージャパン)、「いっしょに作ったべよう」(おたがいさま・JAくにびき女性部)など、新たな協働企画も増え、これまでの「おやこ de 田植え・稲刈り」、「夏休み野外体験」などとあわせ、のべ438人の利用者参加があり家族参加が増えました
- ②: このうち、古志原公民館、津田公民館での「お昼ごはん+学習応援」は、のべ11回に、のべ64人が参加し、地区民児協など100人のボランティアが支えました。
- ③: 「中学3年生進路・進学『応援塾』」は、9月から2月まで開講し23人が受講登録、のべ103人が参加しました。島根大学生など、のべ127人がボランティアとして参加しました。「卒業を祝う集い」には、卒業生と家族など総勢56人が参加し交流しました。
- ④: 「おかあさんのためのレスパイト応援」は、あらたに労協しまね事業団との協働事業となりましたが、のべ23.5時間にとどまりました。

### 3:1, 100万円を超える寄附金応援が寄せられました。

- ①：家庭や職場への広がりをめざして取り組んだ「とんトン募金箱」は、200個以上普及し、2巡目のサイクルに入りました。  
「応援自販機」(22台)は56万円、「募金箱」(とんトン募金含)は40万円超の寄付金が寄せられました。
- ③：「ひと箱の応援キャンペーン」として取り組んだクラウドファンディング、共同募金テーマ募金が、それぞれ目標を達成しました。  
多彩な取り組みで寄附金総額は、1100万円を超え、会費などと合わせ自主財源は60%となりました。

### 4:町のあちこちで、あったか元気便の話題が広がりました。

- ①：日常的な取り組みを伝える facebook は、91回発信しました。「あったか元気便だより」は、年4回、毎回4千枚以上発行しました。
- ②：「お米が足りません。」「応援塾」など新聞報道9回、テレビ報道5回などを契機に地域から取り組みへの共感とともに、たくさんの寄付金やお米、食品が寄せられました。
- ③：メーカー集会や子どもアート Day、地 SUN 地 SHOW、農林業祭、こどもエコミュージアムなどのイベント参加で広報活動を広げました。
- ④：全国的な企画から地域の集まりまで、600人を超える参加者にあったか元気便の取り組みについて講演や報告する機会ができました。

### 5:「応援団」登録をはじめました。

- ①：「専用倉庫+作業場」の新設と業務用冷凍庫2台設置ができ「緊急食卓応援」などにも活用しました。「食品衛生ガイドライン」の学習会と実施監査に取り組みました。業務量の広がりの中事務局体制を強化しました。
- ②：12月に発足した「あったか元気便応援団」には、約65人がLINE登録しました。
- ③：島根大学・大阪大学の研究者と協働し「利用世帯のアンケート調査」に取り組みとともに、次年度には結果を踏まえ「提言」をまとめます。
- ④：学習講演会「貧困のなかでおとなになる」(講師：中塚久美子氏)、「アンケート実施調査報告会」を開催しました。

特定非営利活動法人  
フードバンクしまねあったか元気便  
26年度事業計画書



(はじめに)

あったか元気便の「利用者アンケート調査結果」では、長期化する物価高騰の中で「育ち盛り、食べ盛り」の子どもたちを抱える利用者世帯では、コロナ感染禍時より「くらしと子育て」の「切迫度」が高まっています。

「食品・日用品を節約する」(98%)や、子どもたちと過ごす時間を削り「副職」などで収入増を図り「生活防衛」する世帯が前回比で倍加するなど、「経済的な困窮」と「時間の貧困」が、ますます懸念される状況です。

## 1:市内の児童・生徒の9割フォローをめざします。

- ①:あらたに6つの小・中学校に加え、松江市内の35校に広がります。  
実利用730世帯、食品総提供量35トンを確保し児童・生徒の9割のフォローをめざします。
- ②:物価高騰の続く中、食品にとどまらず日用品など「生活必需品」の持ち寄りの拡充を図るとともに、参加の輪の広がりづくりの契機にもつなげます。
- ③:利用者増と物価高騰のなかで、会員団体のつながりもいかして、多様な「紹介運動」を取り組み、「協働の輪」を広げます。

## 2:多彩な「時間と場」の提供で「おやこde思い出づくり」を応援します。

- ①:新たな企業・団体との「協働」で観劇やスポーツ観戦など「おやこ de 思い出づくり」、「学習と体験の場づくり」の企画と参加の拡充を図ります。
- ②:利用者のLINE登録を広げ、情報発信を充実し企画参加や制度利用、困りごと相談など、「頼りになるあったか元気便」をめざします。
- ③:2つの会場で開催している「お昼ごはん+寺子屋(学習応援)」は、参加対象校を広げるなど協働団体と協議します。  
「中学3年生進路・進学『応援塾』」(9月~2月)は、対象校の拡充を図ります。

## 3:「寄付付き商品」や「ひと箱応援キャンペーン」を広げて

- ①:物価高騰や利用者増を乗り越える地域に支えられた資金確保をめざし、「寄

附付き商品」の開発などあらたな財源づくりを検討します。

- ②：クラウドファンディング（「ひと箱から、はじまる 1000 箱の応援」キャンペーン）寄附金目標 300 万円、共同募金テーマ募金 100 万円などを軸に、寄附金目標 1,200 万円以上で安定した財源確保に取り組みます。
- ③：「とんとん募金箱」や「PayPay つながる募金」、「応援自販機」、「JA しまね 総合ポイント寄附」など、これまでの取り組みを広げ「いつでも、誰でも、どこからでも」の財源づくりを広げます。

#### 4：目から耳から、ひとからひとへインフルエンサーを広げます。

- ①：「元気便だより」の発行部数 4,500 をめざし、町や職場の隅々に「知らせる」取り組みを広げます。  
また、会員団体でも、隅々に情報が届く工夫をすすめます。
- ②：ボランティアや会員団体を中心に「あったか元気便応援団（仮）」の LINE 登録数を 200 人に広げインフルエンサーづくりをすすめます。
- ③：ホームページ充実や情報発信媒体の工夫など、発信力を高めます。

#### 5：会員団体、市民とともに「提言」の実現を

- ①：「島根県子どもの生活に関わる実態調査」（24年）や「利用者アンケート調査結果」（25年）を踏まえ、「就学援助制度」の改善に関わる「提言」の実現に向け行政への働きかけを会員団体とともにすすめます。

#### 6：広がりに見合った実務体制の整備をすすめます。

- ①：引き続き「食品ガイドライン」に沿った改善を図ります。
- ②：利用者増、企画増のなか「個人情報保護」に関する学習や規定、実務整備などをすすめます。
- ③：新しい「協働」で、松江市以外の地域でのフードバンク事業の取り組みをめざします。  
「町並みにあったスタイル」で「利用者の、より近くで意思決定できる」事業、組織づくりを基本に準備をすすめます。